

新たな不登校が生じない取組 「未然防止」の取組

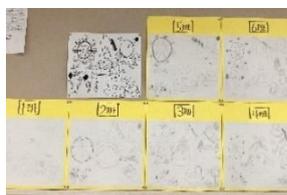
不登校が生じない魅力ある学校・学年・学級づくりの推進

【取組1】(A中学校)

年度当初の学級開きにおいて、第1学年ではソーシャルスキルトレーニングを目的とした「伝言お絵描きゲーム」、第2学年では「自己紹介BINGO」に取り組んだ。各学年とも生徒同士の間関係づくりが行える場を設定し、生徒が安心できる「心の居場所づくり」を行った。

【取組2】(A中学校)

意識調査を年3回実施し、全教職員、全校生徒対象からの回答結果を基に、校内研修会で結果を分析した。そして、P D C Aサイクルで教育活動の見直し、学校、学年、学級において「魅力ある学校づくり」を推進した。



項目	実施時期	実施場所	実施内容	実施回数	実施人数	実施結果
1	2023.10	校内研修会	意識調査結果分析	1回	10名	結果を基に教育活動の見直しを実施
2	2023.11	全校生徒対象	意識調査	1回	100名	結果を基に教育活動の見直しを実施
3	2024.1	全校生徒対象	意識調査	1回	100名	結果を基に教育活動の見直しを実施
4	2024.4	全校生徒対象	意識調査	1回	100名	結果を基に教育活動の見直しを実施
5	2024.7	全校生徒対象	意識調査	1回	100名	結果を基に教育活動の見直しを実施
6	2024.10	全校生徒対象	意識調査	1回	100名	結果を基に教育活動の見直しを実施

【取組3】(A中学校)

運動会で全校生徒による「大江戸ダンス」に取り組んだ。4月以降、3年生がダンスの振り付け、隊形、コールなど、下級生をリードし、異学年交流を深めた。事後学習の一環として、下級生から3年生に感謝の言葉を書き、廊下に掲示した。また、夏季休業中に限定した大江戸ダンス部として、夏祭りに参加し、地域の方々との交流を行った。



【取組4】(B中学校)

英語科では全学年、毎時間の導入時に Warm Up の一環として、全員参加の「Bingo」、既習単語の「Word Puzzle」、T-S や S-S の「コミュニケーション活動」に取り組み、自己決定の場を提供している。数学科では ICT 機器を用いて、生徒がミニティーチャーとして、問題の解答、解説を行い、教え合いや学び合いに取り組んでいる。教科書的な解答方法以外の意見も取り上げ、全員で共有している。

【取組5】(C中学校)

担任・学年・教科などの様々な立場の教員が生徒理解の共有を図り、具体的な支援の方法を探ることを目的として、年度当初に発達検査を実施した。その結果を生徒理解・教育実践に役立てるために、校内研修会を実施し、学年・学級の傾向を把握するとともに、具体的な支援方法を検討し、いじめや不登校などの未然防止と対策に取り組んだ。

多様な学びの場を確保する取組

〔「早期支援」及び「長期化への対応」の取組〕の推進

支援会議（B中学校）

毎週木曜日2校時に開催し、特別支援教育コーディネーターを中心に、教育的支援が必要な生徒の情報共有及び不登校の未然防止、早期支援、迅速な対応、生徒理解についてそれぞれの立場から発言し、具体的な支援を検討している。SC、SSW、巡回心理士も参加し、専門家の立場からの助言もある。

アウトリーチによる支援（A中学校）

巡回教員、支援員、担任が生徒とつながるために、電話連絡や面談、配布物を届けるなどの定期的な家庭訪問を実施している。また、SSWとも連携し、今後の支援計画について保護者と共通理解を図っている。長期休業中の三者面談に巡回教員も同席し、近況報告及び進路希望などの確認、助言を行った。

校内別室における支援（C中学校）

校内委員会で個別支援シートに基づいた最適な支援方法を検討し、全校体制で支援している。校内別室に関する紹介文を年度当初に学校だよりで周知し、月曜日から金曜日の午前8時30分より午後2時まで開室している。2校時・4校時を「個別時間」に設定し、個室ブースで自学自習や個別相談に取り組んでいる。1校時・3校時は「集団の時間」に設定し、ラジオ体操、カードゲームやソーシャルスキルトレーニングを取り入れた活動に取り組んでいる。金曜日には室内清掃を行い、生徒自ら環境美化を推進している。



デジタル機器を活用した支援（C中学校）

学習支援ツールを全学年で導入し、個別最適な学び直し、自主学習の促進などを行っている。授業支援ツールを活用したオンライン授業も配信している。生徒の意向を踏まえ、紙ベース、ノートなどの手書きによるアナログ型学習とデジタル機器を活用した学習とのバランスのとれた学習活動を推進している。

関係機関との連携（B中学校）

管理職、特別支援教育コーディネーター、SC、SSW、子供家庭支援センター、児童相談所などが参集し、「ケース会議」を適宜行い、校内で統一した支援に取り組んでいる。

また、教育支援の進捗状況を毎週の支援会議で速やかに共有し、全校体制で支援の充実を図っている。

成果

どこにもつながっていない生徒数を0人にすることができた。また、学校行事や学年集会などに参加したり、見学したりできる生徒が増加した。

課題

校内別室の環境を充実させ、安心・安全な取組を推進するとともに、外部との組織的な連携を更に充実させ、その効果を検証する。